

# JIS X 0213符号化代替案について (インタビュー補足説明資料)

平成12年(2000年)8月  
日本アイ・ビー・エム(株)

# 代替案提案・審議の経緯

---

- 平成10年(1998年)10月27日 JCS/WG2会議で新JIS符号化(案)が決定された。(10月30日のJCS親委員会で芝野委員長の発言。)
- 平成10年(1998年)10月30日 JCS親委員会で新JIS符号化(案)が審議された。
  - ▶ 新JIS符号化(案)
    - － 本体  
漢字用7ビット符号, 漢字用8ビット符号, 国際基準版・漢字用7ビット符号, 国際基準版・漢字用8ビット符号(EUC), ラテン文字・漢字用7ビット符号, ラテン文字・漢字用8ビット符号
    - － 附属書  
附属書1: シフト符号化表現  
附属書2: ISO-2022-JP-3符号化表現

# 代替案提案・審議の経緯（続き）

---

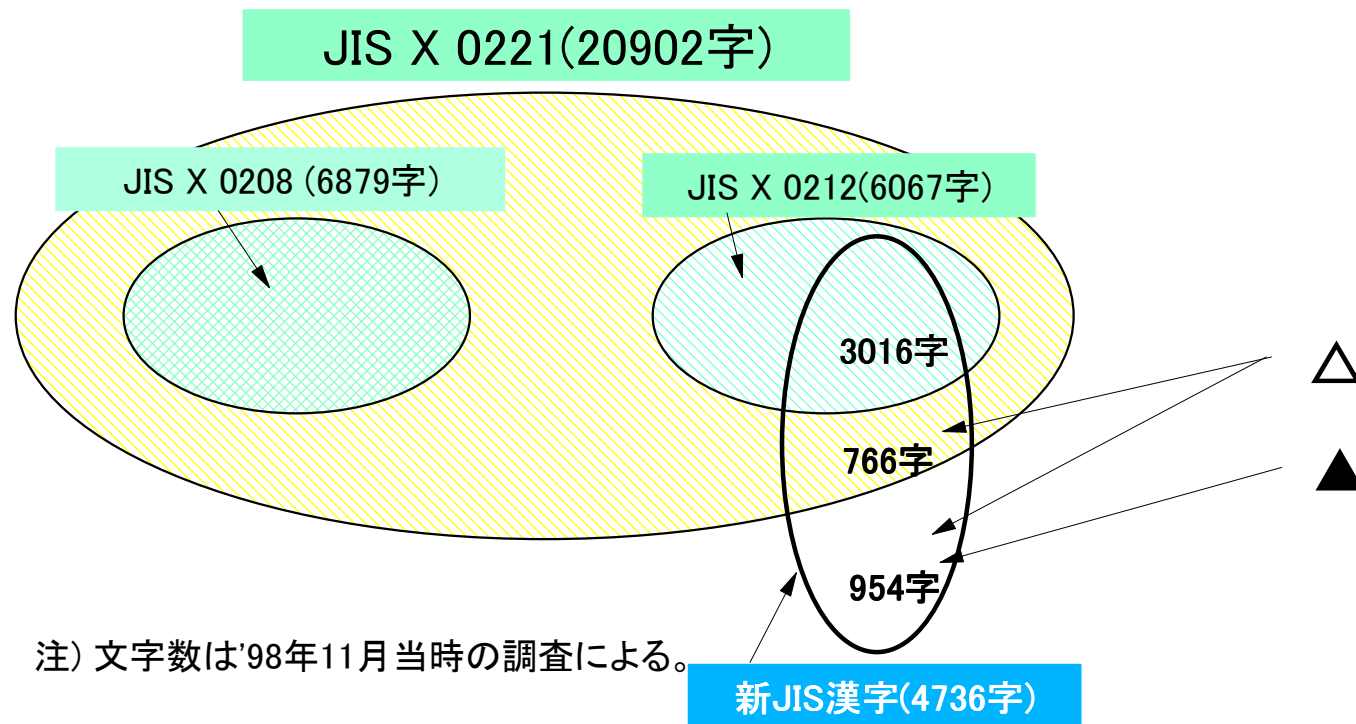
- 平成10年(1998年)11月26日 JCS/WG2委員会において代替案を提示した。

採決の結果, 賛成(1), 反対(14), 棄権(7)で否決された。(IBM委員のメモによる。)

主な反対理由:

- ▶ コード体系間の変換は文字コード変換表に依存する。
- ▶ 文字集合の一部だけを切り出すことは認められない。
- ▶ JIS X 0212を前提にしている。

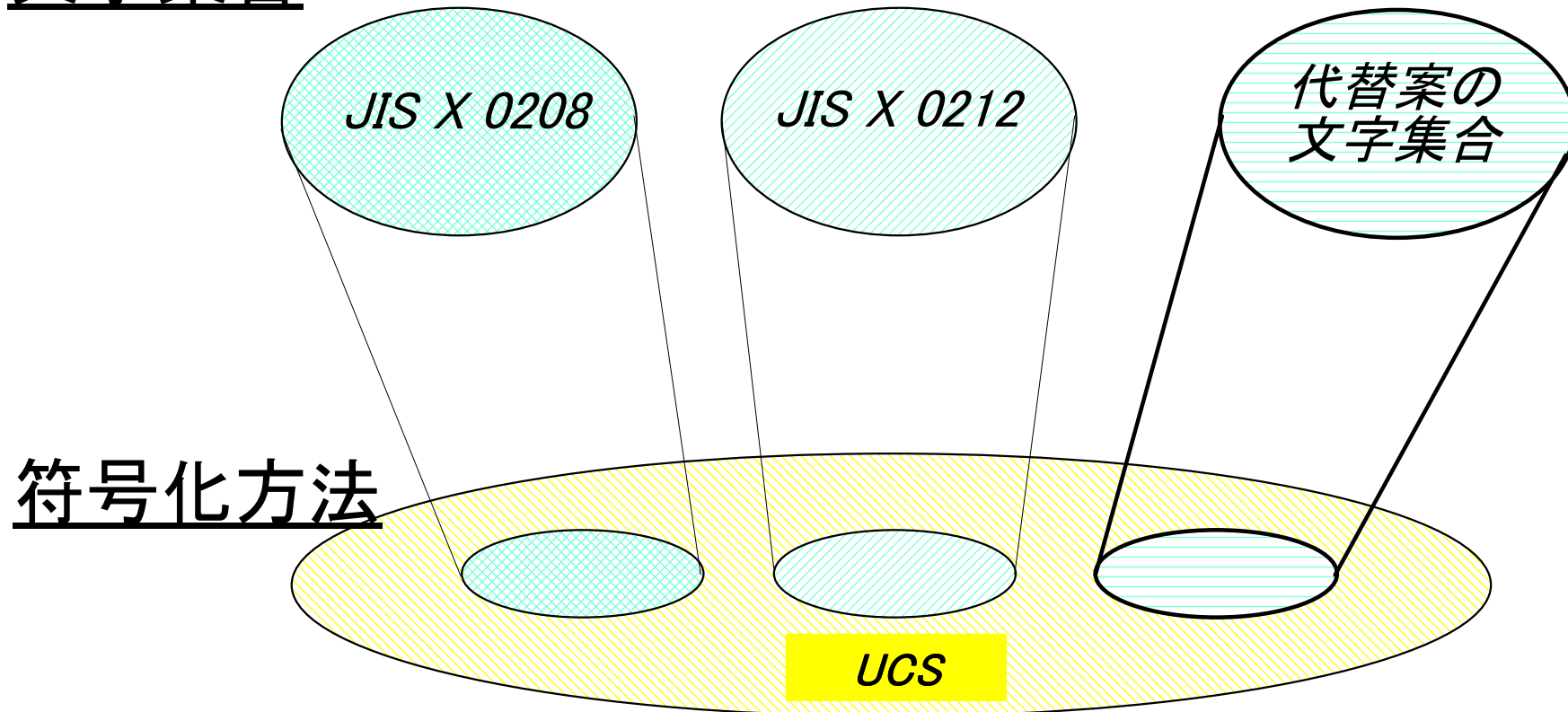
# 代替案(文字集合)



- 1) △を新JISの文字セットとする。
- 2) ▲をUCSへ追加登録する。

# 代替案(符号化方法)

文字集合



3) 拡張文字集合はUCS(JIS X 0221)上で実装することを基本とする。

# 代替案(非UCSコードの符号化方法)

---

実装はUCSで行うことを基本とするが、UCS以外についても検討した。

- UCS以外は既存のデファクト標準を符号化方法の基本とする。
  - シフト符号化 ⇒WINDOWS標準文字セットを基本とする。
  - EUC ⇒AJECを基本とする。
  - ISO-2022-JP ⇒RFC1468を基本とする。
- 既存デファクト標準との互換性を維持する。
  - 既存の領域は潰さず空き領域を使用するという考え方を示した。